

新編 萬葉道五十年の歩み

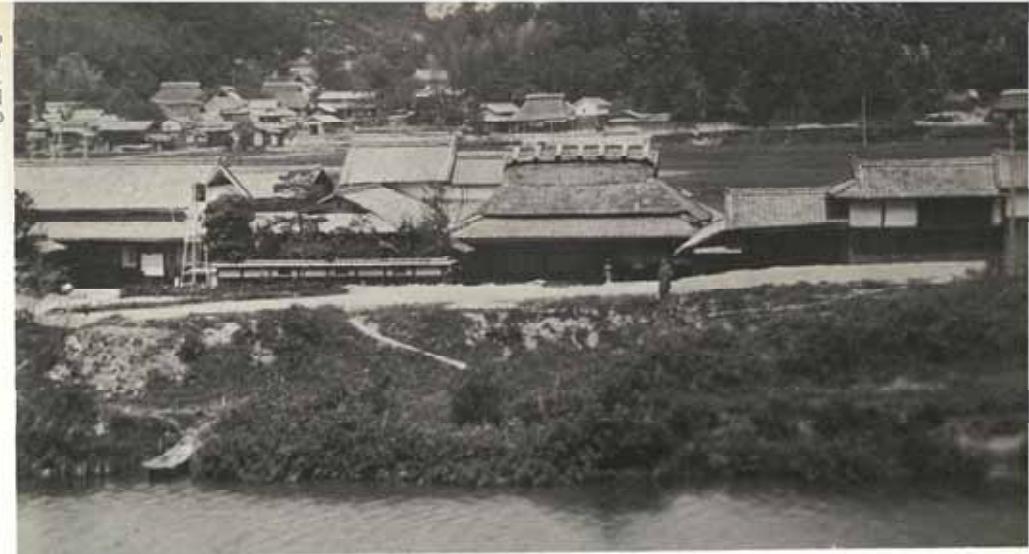
日本華道訓

眞を求め 美と行ない
美を創つと心とし

宗祖の志をついで

人倫の精華となべし

宗高鳳院西林之筆



ありし日の
家元出生地、兵庫県多可郡黒田庄町船町西村家全景
(大正九年撮影)



初代家元夫人 松露女士



西村栄吉氏



初代家元 西村翠雲師



私と新日本華道のあゆみ

二代目家元

西村雲華

私と新日本華道のあゆみ

二代家元 西村雲華

初代家元西村翠雲師と夫人

初代家元は西村翠雲、即ち私の父にはじまりました。兵庫県多可郡黒田庄町の出身で、山一つ向うが丹波という片田舎、その先祖西村栄吉氏は、近郷唯一の蘇富家として知られ、西宮戎大社の分社を同家の隣接地に建立、毎年1月の戎祭りには大変な出店や人出で賑い、私の幼い頃の思い出の一いつとなつて、今もなおなつかしい思いです。こうした中で、私の父は、絵や写真、ヴァイオリンにと実に多趣味で器用な人でした。未だ馬車や人力車が唯一の交通機関だった頃ですから、ラッパのついた蓄音機も珍しく、私も友達を集めて楽しんだものでした。私が小学校のとき、父の描いた天女の舞の大きな引幕が講堂に寄贈されたのも印象的でした。そうしている間に、大正8年頃、大阪から真盛流華道家元上田正道先生を招いて、華道の研究をはじめました。田舎のことですから、たくさんの入門者があらわれ、近郷唯一の雅芸として男子の多くも盛んに習うようになりました。ところが、大正末期真盛流家元上田正道先生死去、後継者がなく消息不明となり、止むなく昭和2年、昌鳳院流家元として、父が家元を創始されたのであります。事情あって、その時は西脇市に住居、茶華道に専念していました。

先代夫人西村松露は、茶道に通じ、戯内流抹茶と亮茶流煎茶を指導、多くの門弟と共に、家元と事ある毎に茶会を催し、野点を楽しんでいました。夫人松露は昭和26年55才で、先代翠雲師は昭和31年61才で、いずれも短命な生涯で他界いたしました。

先代は温和なお人柄でした。そして器用人で、発明家でもあり、特許もいくつか持っていました。夫人は人にとても町寧な心遣いをする人でした。些細な一寸した事で人を満足させる人徳のある人、いつも感心させられました。とにかく、よく走り廻って自分のあるだけの力の限りを人に尽して死んで行ったという印象でした。

私といけばな

私は自分の性格から、華道がいちばん適していると結論づけたのが昭和22年終戦のことです。

した。それまでは決心ができていなかったわけですが、田舎では発展性がないと思い、昭和17年に神戸須磨に住居、その機をねらっていました。しかし戦中の事で、お花どころでなかつたのです。

昭和19年に兵庫県立第一神戸高等女学校に就職したのが私の運命を決したともいえるでしょう。終戦後いちはやく、学校で華道部を復活いたしました。全くといってよいほど花材のない時代ですから山や野の雑草の類を採集しながら、何んでもいけられることを生徒に植えつけたものでした。

一流名の改称

「新日本華道」はこの時から昌鳳院流を改称いたしました。これから華道は流派を越えて研究指導にあるべきだという意味だったのです。が新しい花、前衛的な花という意味に誤解され、ずいぶん迷惑をしてまいりました。又私はいつも、流派をぬきにして物事を考えますので、思いがけない反発をうけることがしばしばで、この道のむつかしさをいやというほど体験してまいりました。

一審査展の開催

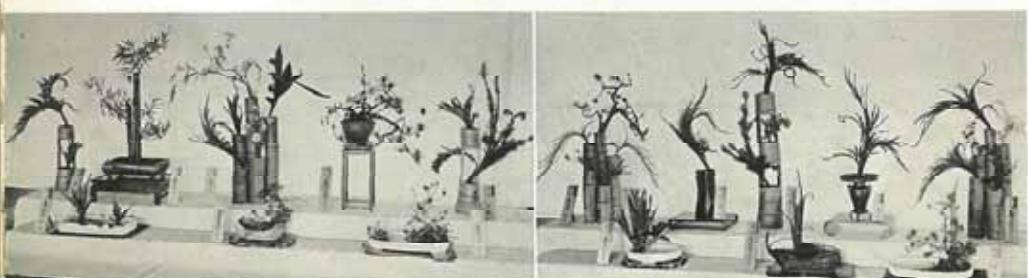
私がこの道に専念したのは昭和26年からです。第二の人生がここからはじまったわけです。兵庫県の華道レベルの低調さを何とかしなければと意気込んだのがきっかけで、神戸三越百貨店を会場に、昭和26年に第一回の兵庫県展を催し、はじめての審査展を開催いたしました。為にいやが上にも立派な作品が出現され、大変な人気を呼んだものでした。いけばなの審査展は作品の向上、研究心の昂揚、超流派的な思考、等には大きく役立つ方法ですが、回を重ねると、いろんなところに弊害があらわれ、円満を欠くことの方が結果的に被害が大きいということ、これも流派が作品より大切であるという実証がはっきりとあらわれてきたので第三回展で打ち切りましたが、これまで誰も手掛けられなかった審査展の反省は、兵庫県の華道界に多大の貢献をし、目ざましい進歩が見られたことは、知る人ぞ知る、であります。



西脇童子山公園の家元邸における家元直門、矢印右から
松露家元夫人、中央現家元雲華師、左初代家元翠雲師。
(昭和十四年)



家元邸にて賣茶悟竹流の煎茶を指導する松露夫人。
(右、昭和十三年)



昭和4年の昌鳳院流の花展、この当時はほとんど古典格花（お生花）で、盛花形式は珍らしい時代でした。写真的、描寫的作品が何よりの魅力で、山に野に花材を求める、足でいける実践がなされていました。

神戸華道新聞掲載

昭和27年5月1日刊



新日本華道 高橋 春華(神戸市)



賞賞賞 挑賞作

仲よし御天舞
新主人の力が半分
新日本華道高橋春華氏の
有馬の山裏まで材料求め
ぬこと。
「私に知事賞が頂けるな
んて……」
石膏を用い
たのは今度。
んですが色
彩的なハロ
マンチワク
にそしてア

評査員(華道家)小原、運営委員会、運営委員会
中山、吉川の三氏(華道家)
以外の芸術家、川西、西林が既に存しない限り比
較すべく含具象的な何物もな
きが行われ、第一次に小原、いと同時に、旗艦によつ
て有馬の山裏まで材料求め
るに——石膏のオブジェ制作
れこれに要しの夢のよう
な作品が生まれるのも無理から
ぬこと。

仲よし御天舞
新主人の力が半分
新日本華道高橋春華氏の
有馬の山裏まで材料求め
ぬこと。
「私に知事賞が頂けるな
んて……」
石膏を用い
たのは今度。
んですが色
彩的なハロ
マンチワク
にそしてア

華道部修了証書を手に卒業記念写真を神
戸高校玄関で。

(昭和二十五年)



神戸一中は神戸一女と合併になり県立神
戸高等学校となる。その当時の華道部指
導の家元雲華師。



現在は背景にある建物、県立第一神戸高等女学校は取り壊され
店舗になつてある。この写真は名残りをおしみながら県一当時の
職員(さつき会)の例会で写したもの、家元は後列左から一人目。
(昭和四十五年)

第二回 兵庫県いけばな審査表 (平均点70点以上の分)

部別	姓 名	審査員名 氏 名	青 川 原 山 中 西 原 森 川 西	平 均 点	入賞者						
格花	新日本華道 心流	林翠英	65 80	70 60	70 75	74 80	75 80	75 80	75 80	71.5 71.6	
日	月堂古流	谷春香	50 70 85 90 100 110 120 130 140 150 160 170 180 190 200 210 220 230 240 250 260 270 280 290 300 310 320 330 340 350 360 370 380 390 400 410 420 430 440 450 460 470 480 490 500 510 520 530 540 550 560 570 580 590 600 610 620 630 640 650 660 670 680 690 700 710 720 730 740 750 760 770 780 790 800 810 820 830 840 850 860 870 880 890 900 910 920 930 940 950 960 970 980 990 1000 1010 1020 1030 1040 1050 1060 1070 1080 1090 1100 1110 1120 1130 1140 1150 1160 1170 1180 1190 1200 1210 1220 1230 1240 1250 1260 1270 1280 1290 1300 1310 1320 1330 1340 1350 1360 1370 1380 1390 1400 1410 1420 1430 1440 1450 1460 1470 1480 1490 1500 1510 1520 1530 1540 1550 1560 1570 1580 1590 1600 1610 1620 1630 1640 1650 1660 1670 1680 1690 1700 1710 1720 1730 1740 1750 1760 1770 1780 1790 1800 1810 1820 1830 1840 1850 1860 1870 1880 1890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030 2040 2050 2060 2070 2080 2090 2100 2110 2120 2130 2140 2150 2160 2170 2180 2190 2200 2210 2220 2230 2240 2250 2260 2270 2280 2290 2300 2310 2320 2330 2340 2350 2360 2370 2380 2390 2400 2410 2420 2430 2440 2450 2460 2470 2480 2490 2500 2510 2520 2530 2540 2550 2560 2570 2580 2590 2600 2610 2620 2630 2640 2650 2660 2670 2680 2690 2700 2710 2720 2730 2740 2750 2760 2770 2780 2790 2800 2810 2820 2830 2840 2850 2860 2870 2880 2890 2900 2910 2920 2930 2940 2950 2960 2970 2980 2990 3000 3010 3020 3030 3040 3050 3060 3070 3080 3090 3100 3110 3120 3130 3140 3150 3160 3170 3180 3190 3200 3210 3220 3230 3240 3250 3260 3270 3280 3290 3300 3310 3320 3330 3340 3350 3360 3370 3380 3390 3400 3410 3420 3430 3440 3450 3460 3470 3480 3490 3500 3510 3520 3530 3540 3550 3560 3570 3580 3590 3600 3610 3620 3630 3640 3650 3660 3670 3680 3690 3700 3710 3720 3730 3740 3750 3760 3770 3780 3790 3800 3810 3820 3830 3840 3850 3860 3870 3880 3890 3900 3910 3920 3930 3940 3950 3960 3970 3980 3990 4000 4010 4020 4030 4040 4050 4060 4070 4080 4090 4100 4110 4120 4130 4140 4150 4160 4170 4180 4190 4200 4210 4220 4230 4240 4250 4260 4270 4280 4290 4300 4310 4320 4330 4340 4350 4360 4370 4380 4390 4400 4410 4420 4430 4440 4450 4460 4470 4480 4490 4500 4510 4520 4530 4540 4550 4560 4570 4580 4590 4600 4610 4620 4630 4640 4650 4660 4670 4680 4690 4700 4710 4720 4730 4740 4750 4760 4770 4780 4790 4800 4810 4820 4830 4840 4850 4860 4870 4880 4890 4900 4910 4920 4930 4940 4950 4960 4970 4980 4990 5000 5010 5020 5030 5040 5050 5060 5070 5080 5090 5100 5110 5120 5130 5140 5150 5160 5170 5180 5190 5200 5210 5220 5230 5240 5250 5260 5270 5280 5290 5300 5310 5320 5330 5340 5350 5360 5370 5380 5390 5400 5410 5420 5430 5440 5450 5460 5470 5480 5490 5500 5510 5520 5530 5540 5550 5560 5570 5580 5590 5600 5610 5620 5630 5640 5650 5660 5670 5680 5690 5700 5710 5720 5730 5740 5750 5760 5770 5780 5790 5800 5810 5820 5830 5840 5850 5860 5870 5880 5890 5900 5910 5920 5930 5940 5950 5960 5970 5980 5990 6000 6010 6020 6030 6040 6050 6060 6070 6080 6090 6100 6110 6120 6130 6140 6150 6160 6170 6180 6190 6200 6210 6220 6230 6240 6250 6260 6270 6280 6290 6300 6310 6320 6330 6340 6350 6360 6370 6380 6390 6400 6410 6420 6430 6440 6450 6460 6470 6480 6490 6500 6510 6520 6530 6540 6550 6560 6570 6580 6590 6600 6610 6620 6630 6640 6650 6660 6670 6680 6690 6700 6710 6720 6730 6740 6750 6760 6770 6780 6790 6800 6810 6820 6830 6840 6850 6860 6870 6880 6890 6900 6910 6920 6930 6940 6950 6960 6970 6980 6990 7000 7010 7020 7030 7040 7050 7060 7070 7080 7090 7100 7110 7120 7130 7140 7150 7160 7170 7180 7190 7200 7210 7220 7230 7240 7250 7260 7270 7280 7290 7300 7310 7320 7330 7340 7350 7360 7370 7380 7390 7400 7410 7420 7430 7440 7450 7460 7470 7480 7490 7500 7510 7520 7530 7540 7550 7560 7570 7580 7590 7600 7610 7620 7630 7640 7650 7660 7670 7680 7690 7700 7710 7720 7730 7740 7750 7760 7770 7780 7790 7800 7810 7820 7830 7840 7850 7860 7870 7880 7890 7900 7910 7920 7930 7940 7950 7960 7970 7980 7990 8000 8010 8020 8030 8040 8050 8060 8070 8080 8090 8010 8020 8030 8040 8050 8060 8070 8080 8090 8100 8110 8120 8130 8140 8150 8160 8170 8180 8190 8200 8210 8220 8230 8240 8250 8260 8270 8280 8290 8300 8310 8320 8330 8340 8350 8360 8370 8380 8390 8400 8410 8420 8430 8440 8450 8460 8470 8480 8490 8500 8510 8520 8530 8540 8550 8560 8570 8580 8590 8600 8610 8620 8630 8640 8650 8660 8670 8680 8690 8700 8710 8720 8730 8740 8750 8760 8770 8780 8790 8800 8810 8820 8830 8840 8850 8860 8870 8880 8890 8810 8820 8830 8840 8850 8860 8870 8880 8890 8900 8910 8920 8930 8940 8950 8960 8970 8980 8990 9000 9010 9020 9030 9040 9050 9060 9070 9080 9090 9100 9110 9120 9130 9140 9150 9160 9170 9180 9190 9200 9210 9220 9230 9240 9250 9260 9270 9280 9290 9300 9310 9320 9330 9340 9350 9360 9370 9380 9390 9400 9410 9420 9430 9440 9450 9460 9470 9480 9490 9500 9510 9520 9530 9540 9550 9560 9570 9580 9590 9600 9610 9620 9630 9640 9650 9660 9670 9680 9690 9700 9710 9720 9730 9740 9750 9760 9770 9780 9790 9800 9810 9820 9830 9840 9850 9860 9870 9880 9890 9900 9910 9920 9930 9940 9950 9960 9970 9980 9990 10000 10010 10020 10030 10040 10050 10060 10070 10080 10090 10010 10020 10030 10040 10050 10060 10070 10080 10090 10100 10110 10120 10130 10140 10150 10160 10170 10180 10190 10200 10210 10220 10230 10240 10250 10260 10270 10280 10290 10300 10310 10320 10330 10340 10350 10360 10370 10380 10390 10400 10410 10420 10430 10440 10450 10460 10470 10480 10490 10500 10510 10520 10530 10540 10550 10560 10570 10580 10590 10600 10610 10620 10630 10640 10650 10660 10670 10680 10690 10700 10710 10720 10730 10740 10750 10760 10770 10780 10790 10800 10810 10820 10830 10840 10850 10860 10870 10880 10890 10900 10910 10920 10930 10940 10950 10960 10970 10980 10990 11000 11010 11020 11030 11040 11050 11060 11070 11080 11090 11100 11110 11120 11130 11140 11150 11160 11170 11180 11190 11110 11120 11130 11140 11150 11160 11170 11180 11190 11200 11210 11220 11230 11240 11250 11260 11270 11280 11290 11300 11310 11320 11330 11340 11350 11360 11370 11380 11390 11400 11410 11420 11430 11440 11450 11460 11470 11480 11490 11500 11510 11520 11530 11540 11550 11560 11570 11580 11590 11600 11610 11620 11630 11640 11650 11660 11670 11680 11690 11700 11710 11720 11730 11740 11750 11760 11770 11780 11790 11800 11810 11820 11830 11840 11850 11860 11870 11880 11890 11900 11910 11920 11930 11940 11950 11960 11970 11980 11990 12000 12010 12020 12030 12040 12050 12060 12070 12080 12090 12100 12110 12120 12130 12140 12150 12160 12170 12180 12190 12110 12120 12130 12140 12150 12160 12170 12180 12190 12200 12210 12220 12230 12240 12250 12260 12270 12280 12290 12210 12220 12230 12240 12250 12260 12270 12280 12290 12300 12310 12320 12330 12340 12350 12360 12370 12380 12390 12310 12320 12330 12340 12350 12360 12370 12380 12390 12400 12410 12420 12430 12440 12450 12460 12470 12480 12490 12410 12420 12430 12440 12450 12460 12470 12480 12490 12500 12510 12520 12530 12540 12550 12560 12570 12580 12590 12510 12520 12530 12540 12550 12560 12570 12580 12590 12600 12610 12620 12630 12640 12650 12660 12670 12680 12690 12610 12620 12630 12640 12650 12660 12670 12680 12690 12700 12710 12720 12730 12740 12750 12760 12770 12780 12790 12710 12720 12730 12740 12750 12760 12770 12780 12790 12800 12810 12820 12830 12840 12850 12860 12870 12880 12890 12810 12820 12830 12840 12850 12860 12870 12880 12890 12900 12910 12920 12930 12940 12950 12960 12970 12980 12990 13000 13010 13020 13030 13040 13050 13060 13070 13080 13090 13010 13020 13030 13040 13050 13060 13070 13080 13090 13100 13110 13120 13130 13140 13150 13160 13170 13180 13190 13110 13120 13130 13140 13150 13160 13170 13180 13190 13200 13210 13220 13230 13240 13250 13260 13270 13280 13290 13210 13220 13230 13240 13250 13260 13270 13280 13290 13300 13310 13320 13330 13340 13350 13360 13370 13380 13390 13310 13320 13330 13340 13350 13360 13370 13380 13390 13400 13410 13420 13430 13440 13450 13460 13470 13480 13490 13410 13420 13430 13440 13450 13460 13470 13480 13490 13500 13510 13520 13530 13540 13550 13560 13570 1358								

一二代家元継承

昭和31年8月、先代家元翠雲師死去により、私が二代目を継承いたしました。その時、私は既に、兵庫県展や、近畿圏の諸流お家元大家との親交も深く、おもな花展のお世話をしておりました関係で、そのままの姿でおつきあいさせていただき、今まで華道一筋に専念することができ、ほんとうに幸わせな過去だったと思っております。

＝新潮花の制定＝

いけばなは急速な発展を遂げましたが、時代の流れも流水の如く急流、暖流あり、一定ではありませんでした。前衛的な時代から、クラシックな時代へと、すべての物の考え方かたがリバーバルへと移行してまいりました。しかし私は、ここまで進歩したいけばなへの考え方方が、やすやすと昔の姿にかえる懸念はないと信じたのです。古典の素晴しさは完成された伝統芸術の素晴しさであります、もっと時代的な次元の高い芸術として生活に密着したいけばなを創造しなければならないと考え、創り出したのが新潮花であります。既に昭和24年頃からその基本的な花型即ち新潮格花、新潮構成花、美術花等の内容について発表をし、高く評価されたものでした。

新日本華道には古典格花即ちお生花があるということ、これがあるがために、新潮花が生れたということ、おそらく新らしいいけばな造型に対して理論付け、基本花型を創定したものは今もって他に見られない現状から見ても、如何にいけばな造型が素材的にも千差万別、複雑であるかを知ることができます。その辺に伝統あるいけばなを現代に活かす本当の意味があるのであって、リバーバル時代だからといって、昔のまゝを現代生活に持込むことの懸念を悟らねばならないと思ったからであります。

＝新生花・雅風花の制定＝

かくして時代は急速に進展し、新日本華道においても、更に新花種、²新生花を制定。昭和48年立華調の新らしい風雅な姿態を創り出したのであります。更に昭和50年には新生花を一層単純化した。俳画的、俳風的な³雅風花⁴を制定、現代の生活様式にうるおいのある、詩情豊かな花型を創り出したのであります。こうしたこととは、他の流派には全く至難な作業だと思いますが、

新日本華道は流派を超えて、大極に立つて判断し、実行に移しておりますので、このように素晴らしい充実した内容を調べることができたのであります。

ここで、その内容を整理してみますと

1. 古典格花（生花） 2. 自由花（盛花、投入花、盛物） 3. 新潮花（新潮格花、構成花、美術花）昭和26年制定。 4. 新生花、昭和48年制定。 5. 雅風花、昭和50年制定。 6. 民芸花、昭和46年制定。

＝後世に残すために＝

このように私は、指導する立場に立って、花型の制定を行なったものであります、決してこれを固執するものではなく、自由を束縛するものでもありません。しかし自由を主張するには、先づ新日本華道の次元の高い基本花型を修得することによって、真にいけばな芸術性を知ることができ、自由への道が発見できることを忘れてはならないと思います。そういう意味から、巾広く、奥深く、次元の高い、花種の制定を行なってまいりました。50周年を一区切として、新日本華道の一応の指導体制を整えることができたのであります。いけばなは後代のためによいものを残して置かねばなりません。私の長男、謙が三代目家元として懸命の努力をいたしておりますことが新日本華道にとって何よりの力づけとなっているのではないかでしょうか。

新生花



雅風花



追善の会に参列の来賓にあいさつする二代目家元
西村翠華師（西脇市民会館）

初代家元 西村翠雲師の追善の会 (昭和47年)



①妙心寺派、西光寺高橋貢応師を迎えた法要
②追善会に功労者表彰

初代家元西村翠雲師は、昌向、昌光、翠雲と三回雅号をかえている。

昭和31年8月15日西脇市にて発病16日脳底出血にて死去、ちょうど翠雲師はお盆休みで帰郷、夕食を一緒に楽しく終え寝床について間もなく突然の発作、医師の手をつくすすべもなく永眠された。昭和47年9月30日17回忌にあたり郷土西脇市民会館で追善花展並法要が初代家元に師事した多くの門下生並、来賓参列のもとに行なわれ、その中にあって特に功労のあった現職師範に対し翠華家元より表彰があった。



同功労者の表彰



そごう神戸店における雲華個人展(昭和42年)

= 百貨店における花展 =

新日本華道は神戸、三越、大丸、そごうを会場に毎年のように花展を開いてきたが、そごう神戸店における雲華個人展を最後に、三宮地下街さんちか広場ができるから、そこを会場に、毎年花展を開催するようになった。



雲華個人展入口作品そごう神戸店、ウインドウ装飾花そごう神戸店



= 真の願いは「花の心」を =

いけばなが伝統芸術だからと言って、流名の古いことが決して自慢にならないと思います。

新日本華道から出て、古い流名を名乗って家元を樹ててこれが繁盛している時代ですから、いざこも同じきびしい世相で、恥かしいことです。

いけばなは芸術でないと言われても当然のこと、花の心よりも、のれんが大切、モラルも外聞もない華道界の現状は実になげかわしいことです。

どの世界でも同じようなことが言えるでしょうが、派閥による力の圧力、これが如何に眞実をゆがめるものであるかをこの道においても知ることができます。人間一人一人が花のように美しく、自然な姿に生きられるものなら、どんなにか幸わせな社会が生れることでしょう。

「花の心を」という新日本華道の願をこめて、昭和49年4月、神戸の名刹、布引山の徳光院境内に、花の碑を建立したのも、奉仕的精神を忘れ、自分のためにのみ手段を選ばない人々の多い現代社会に、一人でも「花の心」を知ってもらいたいと思つたらです。

いけばなをいけることによつて、花との対話の中から、多くの教訓を悟り、自分の心に深くとり入れなければなりません。これが華道というものでしょうか。流派や技術がいけばなのすべてではなく、より大切なのは「花の心」を知り、自分の心として、社会に役立つ心の美しい人間をつくり出すことが新日本華道の眞実の姿であり、華道たる所以であり、現代社会に逆行しても、これだけは貫かねばならないと思つております。



加古川支部花展、姫路信用金庫加古川支店にて。昭和46年春

京都陶芸家、安田友彦作品展に新日本華道救援会が捧花、雲華家元の書画も出陳された。昭和47年



さんちかがクロパロードに改装、店舗の大新装を行なった記念に神戸名流新作いけばな10人展を行なった。その時ツアイス博士のお孫さんが来場、家元作の前で記念撮影。

(昭和50年秋)

新日本華道PR展

現在さんちか本通にあるインホメーション神戸に改装する寸前教授会主催で新潮花並新生花のPR展とデモストレーションを行なった。

(昭和50年春)





鳩をテーマに新長田駅に展示された家元の祝華
(昭和52年3月13日)

「花の心を」PR

新日本華道会では「花の心を」の花碑建立とともに、花を通じて人間社会の浄化に努めてきましたが、「花の心を」という文字をかけて、神戸さんちかインホームーションなどに花をいけ、四季の移りかわりを通して通勤の人々に気付いてもらい、一日の勤めのなぐさめとなるよう心をこめて生き生きとした季節の花を奉仕してまいりました。

—神戸市営地下鉄開通オープンに新長田駅に祝華—
新幹線並といわれる最新技術導入の神戸市営地下鉄が去る3月12日に新長田駅、名谷間が開通しました。そのオープンに神戸新聞社の依頼により祝華として鳩をテーマに家元の作品が出品されました。



神戸さんちかインホームーション通りに「花の心」を標示していけられた家元の作品(昭和52年春)



裏千家茶道をたしなむ宗雲家元夫人はお茶のこととなれば何をおいても飛んで行くという熱心さ、たびたび門下生とお茶事を楽しむ。

(相楽園にて)



茶道三昧

家元夫人 西村宗雲

免状授与式には晴天のとき、神戸布引徳光院庭において野点の添釜を楽しむ宗雲社中。



家元宅にて初釜。





新日本華道のさんちか展

「よう毎年やりはりますなあ」と言われるさんちか広場での新日本華道展、昭和41年三宮地下街ができてから共にあゆんで10年。寸暇をきいて花と茶を楽しみに来る市民の方々が多く、毎回いろいろと趣向をかえて行っている。



花の心を丹波にいける
（昭和四十八年）

家元アザインの薄端に新潮
格花をいけた席

昭和47年

竹の心にいける

昭和49年



家元新教場開場を記念して家元の小作品展が同教場で行なわれた。
(昭和50年5月9・10日)



イケバナインターナショナル神戸支部総会で家元が身近かな花材でのデモストレーション。
(昭和50年5月14日)



さんちか展は家元の水墨画が時折り展示され会場をなごませている。
参議院議員井元彦先生も新日本華道のファン、
多忙の中を会場で一休み。

大阪京橋、ダイエー
ショッピングセンタ
ーでの新日本華道展
貝原六一画伯などの
行動派の絵も同時展
示された。

(昭和47年)



= 家元二人展 =

昭和50年3月27日～4月1日

『かたらい』をテーマに、社会を明るく、一般の方々の心にやすらぎをと、絵画、書、俳句、短歌、川柳、詩、写真など、「7の会」のメンバーの協賛を得て開催された新日本華道家元西村雲華、副家元西村謙の二人展がさんちかひろばで開催された。いつものさんちか展と異なり、その目的にそって、とてもなごやかな雰囲気が出て、内容的にも充実した催しとして好評であった。中でも『水と花』。国境を超えて「北から南から。など、詩と花、工芸、面、刺繡などのオブジェと花など、そのテーマに相応しくいけられ、詩を楽しみ、絵を楽しみ、写真と花など、心ゆくまで観客を楽しませ、茶席が更になごやかに、ほんとうに、日本ならではの温かい心のもてなしが感じられ、春の花の宴も、散る花と共におしまれつつ終りをつけた。

「7の会」=神戸、天津友好使節のため昭和49年4月中国に派遣された文化関係代表者で、帰国後結成された同使節メンバーによる会。

協賛 増井不二也(川柳)、小山素洞(書道)妹尾太郎(写真)市野弘之(陶芸)永岡うろお(俳句)田中竜兒(日本画)伊勢田史郎(詩)上野晴夫(短歌)上尾忠生(洋画)服部清美(手芸)畑マス子(工芸)新谷英子(彫刻)以上12名。

(写真、家元2人展会場風景)



新日本華道のさんちか花展会場は文化人をはじめ一般の方々が楽しく語りあう、いこいの場もある。

(家元二人展会場風景)



新年初会

(神戸生田神社会館)



神戸製鋼加古川工場
第一溶鉱炉火入式場における
家元のお祝花



神戸製鋼加古川工場第一号溶鉱炉火入式場の家元お祝花



大会場での構成

いけばなは床の間藝術から、台所や職場えと進出、更に大ホールえとそれぞれの目的をもって、充分成果を挙げている時代ですが、雲華家元は特にその方面にも活躍。そごう神戸店のウインドウ迎春花を、昭和30年代は毎年力作が出陣され、又神戸デパートの大ウインドウえと進出してきました。又神戸製鋼所東灘工場の溶鉱炉火入式のお祝花をきっかけに、加古川工場の第一、第二鉱炉共にチェンブロックを用いての超大作、を制作、又邦楽都縁会の定期演奏会には神戸国際会館、加古川市民会館の大ホールなどに構成、お祝花の城を逸脱して一層演奏効果を高めるに役立っていました。

邦楽都縁会定期演奏会の会場構成=神戸国際会館大ホール



毎年新年初会が行なわれる。このときには、家元の初いけや尺八も聞けたが、だんだん聞けなくなりそう。福引の書画はまだまだ楽しみにできそう。年一回の楽しい新年会には来賓のなつかしい顔もそろい、かくし芸も飛び出す。 (下) 神戸相楽園での新年会





師範会研究会

新日本華道は教授会(年4回)、師範会(年2回)、一般会(年1回)家元指導による研修会が行なわれ、理論と実技の研究をし、又他の部門の専門家、学者などの講演会を開催するなど物心両面にわたって教養をたかめることに努めている。

|| 夏期講習会 ||

山菜を用いていけるいろいろな考え方の解説をする西村雲華家元(上段)尚、この講習会はいけばな以外の実技講習も行なうことがあり、写真二段目はパンフラワーの実習を受けブローチーなどを楽し制作しているところ。指導は教授会のメンバーが行なつた。

|| 焱の会 ||

兵庫、京都、四国、中国などの家元グループで“炎の会”を結成し、年何回か研修会を行なう、主として懇話会を開催し、広く知識を求めるため、ディスカッションなどを行なうが、時には野や山で花材を採集し、いけた作品の主張や批評を交わす楽しい勉強の会、この写真は兵庫県いこいの村にて開催(三、四段目、昭和五十一年七月)





山崎街道にある連水井戸、月光寺での松茸めしの駆走が忘れられない。(昭和46年)

現地研修会

新日本華道は年1回現地研修会を行なうことになっている。宇治、京都、奈良の古都などを尋ね、視野をひろめることにも努めている。

兵庫県いけばな協会の研修会とも積極的に参加、各方面に出向く。



親友の佐藤柴仙氏は兵協の企画運営を言葉たぐみにやった人だが若くして死去、立派な人をなくして残念。

(家元の向側)

奈良薬師寺の高田貴長のユーモアな話し聞く日本いけばな芸術協会の研修会。



上段：生田神社における家元の獻花

下段：新師範昇格者におはらい

上：免状授与式における家元の祝辞(徳光院)

中：実技試験のためいけられた作品(徳光院)

下：生田神社えびら会館での免状授与(えびら会館)

=免状授与式=

免状授与式は春、秋2回行なわれる。現代は「花の碑」建立と共に拈花の会の花供養をかねて、徳光院で行なわれ、実技試験及びペーパー試験の発表など行なわれ、免状が授与される。

はじめて三宮神社で免状授与式を行なったときの記念写真 (昭和45年)



神戸・リガ市姉妹都市提携
いけばな部門で家元文化使節

6月14日出発、河合三雲ご夫妻と池田昭風師のいけばな部門文化使節として、モスクワ経由ラトビア共和国の首都リガ市に着き、18日いよいよデモンストレーションをやることになった。問題は花材である、地元の方に依頼し持ち込まれた花が、心配していた通り全くお話しにならないものばかり、古典から現代までの伝統あるいけばなを披露しようと思ったけれど、古典の花材がない、お花屋さんがなく町角で瓶に挿して、カーネーション、バラなどを少量売っているだけでいけばな用など全く考えられない、従って木物はない、仕方ないから、用意して来た鉄製の三管いけにコテマリの小枝とバラで生花風にいた。

ところが後から逆いけをしたために何故かわからないが、思いがけない大かっさいを浴びた。更にアイリスを用いて古典花。新様式の花器に現代花を五作ほど、日常生活に親しみやすいものばかり七作を披露した。持ち時間50分で早逆いけのためであろう、大喝采とスター並のサイン攻にあった。そのときの女性の目の輝きから、いけばなえの情熱は大へんなもの、一作一作熱心にスケッチする人、カメラに撮る人、あとで展示場に展示した作品から目をはなそうとしない熱心さに驚いた。このように、花を心から愛する国民である、というのも、ホテルのフロント、ロビーに必ず花が挿してある。日常生活の中に、花がこうまで取り入れられているラトビア民族の美意識、精神的文化に極めて優れたものを持っていることに敬意を表したい。(雲)



①リガ市で地元採集の花材でデモンストレーションをする家元
雲華師と池田昭風師、聴講者はリガ市長他高官及夫人たち
500人くらい。
(昭和49年6月18日)

②リガ市から神戸みなと祭に来日の高官と歓迎パーティーを開く。(須磨浦観光ホテル)
(昭和51年5月)



ピョトル宮殿を背景にのんびりと右から
河合三雲、ご夫人、池田昭風。



モスクワ河を経てクレムリン宮殿を背景に、家元と河合三雲師



リガ市長と宮崎神戸市長と姉妹都市締結書にサインを終え握手を交わした瞬間。この席に家元も参列していた。

(家元が撮影したもの)

リガ市での使節を終えて

ラトビア共和国には偉大なる遺産がたくさんあり、博物公園など素晴らしいものがある。文化、生産、貿易共にソビエト第一位とのこと。古都で何んとなく落付いた町である。リガをあとに、レニングラードえ、これ又素晴らしい緑と噴水と彫刻の町には恐れ入る外ない、そしてエルミタージュ博物館などロシヤ文化、西欧芸術など古代世界の文化と芸術の殿堂にしたことができ、今一度行ってゆっくりと見たい気持でいっぱい。

7の会展

神戸、天津友好の船で文化推進会議から20名参加、帰国後「7の会」を結成し熱烈なる歓迎を受けた思い出や印象をあらわそうと神戸新聞会館9階ギャラリーで展覧会を開いたときの家元作



神戸・天津友好の船
7の会
■ 49年6月3日㈭-6月24日㈮
3:00-21:00
■ 神戸市民芸術文化推進会議
7の会



ハワイ観光の旅、兵庫県いけばな協会一行。（昭和46年2月）



ハワイ観光の旅、兵庫県いけばな協会一行。（昭和46年2月）

海外旅行

家元は中国、ソ連、台湾など文化使節としての旅行と共に日本いけばな芸術協会、兵庫県いけばな協会などの研修で再度台湾、香港、マカオ、ハワイなどへも旅行。



日本いけばな芸術協会、台北孔子廟前での一行。（昭和四十七年六月）



静介石総統生誕（九十一才）恭祝いけばな展を台北講堂で開催、男性使節（上）とその時の作品と家元（右）（昭和四十二年十月）

島鳳院・三葉亭
公演

おとこ



日本いけばな芸術協会研修会、台北孔子廟前での一行。（昭和四十七年六月）

花の碑開眼式 (拈花の会で花供養)

昭和49年4月13日、新日本華道待望の花の碑が、神戸布引山、徳光院の境内に建立され、その開眼式が行なわれた。晴天に恵まれ、国鉄ストながら、各界から多数の来賓をお迎えし、開眼除幕式は、都縦会高平鰐山師指揮のもとに、箏、尺八40名の厳粛なる演奏がおこなわれ、家元の孫女、一美ちゃんが力いっぱい引張ってやつとのこと幕が除かれた。家元の献華、住職の橋本恭堂師の読経、上月倫子バレーを最後に、各界からの来賓の祝辞をいただき、開眼式を終えた。続いて立食パーティーながら、桜の花がちらほらと舞い風情を見せる中、楽しい手造りの料理を交えての馳走に話がはずみ、最後に橋本住職の方才三唱で幕を閉じた。

花の碑開眼によせて

橋 ゆみ子

みよし野の箏のしらべの高調に
幕引かれたり花の心、

咲きのころさくら碑面をかすめ散る
花の心の開眼続経に、

春風のしづ心なく散らすさくら花
花の心にこの風情わも、



免状授与式は拈花の会で花の碑供養がはじまる。先づ家元の献花(上)住職橋本恭堂師の読経(左上)、免状授与者の献花(左下)の順に行なわれる。



第、尺八四十名による演奏を
指揮する高平鰐山師が献華に
合わせ演奏。



上月倫子バレーが演奏に合わ
せ最後をはなやかに献華の行
事を終えた。



来賓、参加者に建立の喜びと
謝辞を述べる家元西村雪華師。



花の碑開眼式には県知事代理その他各界から多数参加來賓の中、小原流家元小原豊雲先生の祝辭(上)と祝賀パー
ティー(下)



四国高松から運ばれた6屯の花の碑を安置するグレーン車。
徳光院住職橋本恭堂師読經、家元雪華氏献華。



除幕式は開家元謙先生長女一美娘の手で。

以心伝心

無口な二代家元西村雪華師は、自分の心を花の心にと努め、一人でも多くの人々にその心境をうつしたえたいと、真ごころを込めて「花の心を」と執筆され、四国高松庵治石に托された。



兵庫県いけばな協会創立十周年に家元表彰される。その時家元の尺八、笙合奏披露

兵庫県いけばな協会と私

私は兵庫県の出身、郷土の華道发展のため、生涯をかけてきた、それだけに協会の事業も軌道に乗り、全員の力で、それぞれの持場が生かされるように改革された、というのも創立当時は実に独裁的、天下り的運営がなされ、他のほとんどがそれに従っていればよいという実態で、県と神戸新聞社がこれのバックアップをしていた。

これでは民主的且、自主的な運営が出来ないと思い、組織の大改革を強硬に押し進めるよう通言し、創立七年目くらいにやっと2部6委員会制を実施する運びとなった。即ち、総務部、事業部の2部企画、庶務、広報、展覧会、研修、社会事業の6委員会である。これを実施して今日まで、それぞれの責任において実に熱心に討議も行なわれ、お互の信頼感が深まり、自主的運営が出来るようになり、名実共に全国的なモデル協会が出来、何時の時代になっても、総意を結集して運営することができるようになったのである。と同時に名譽幹事制の実施により、永年協会に尽され、功労のあった先生方には、名譽職についていただき、高所から指導をいただく制度をもうけた。これによって、若い世代の協会に対する意欲がたかまり、一層協会運営が活発に行なわれるようになったことは、まことによろこばしい現状である。これに対して、いつも何かとアドバイスをいただき、県、市、神戸新聞社は、協会と一緒に同体、これ又他府県に見られない美しい姿ではないだろうか。

(第)



兵庫県いけばな協会創立二十周年記念式典は神戸国際会館で行なわれ、そのとき舞台に家元作の装飾花（上）と兵庫県知事（下）より感謝状の授与があった。



兵庫県いけばな協会秋の花展をご覧いただく常陸宮妃殿下。



兵庫県いけばな協会の大花展に高松宮妃殿下ご臨場、家元のご先導にて花展をご巡覧いただき、家元作をご覧になっている妃殿下
そごう神戸店(昭和42年5月)

宮様と兵庫県いけばな協会

いけばなに非常なご关心をお持ちの高松宮妃殿下は地方の花展をご覧になるのは兵庫県がはじめて、協会15周年記念に神戸中央体育館にお迎えして総会を開催するなど思い出もひとしお常陸宮妃殿下のご臨場もあり光榮なことである。



補公 100年祭記念、兵庫県いけばな協会春の花展をご覧いただき、高松宮両殿下。
大丸神戸店(昭和47年5月)

兵庫県いけばな協会秋の花展をご覧いただく常陸宮妃殿下。
大丸神戸店(昭和50年秋)

財団法人 日本いけばな芸術協会発足

昭和41年12月5日、財団法人日本いけばな芸術協会発会式が東京ニューオータニにおいて行なわれ、全国唯一の権威ある華道団体が結成されたのである。これは日本の華道史上かつてないことで、名譽総裁に高松宮妃殿下をいたいたことは、まことに意義深く名誉なことである。結成当時は理事60名、評議員160名という小数の役員で発足。家元西村雲華師は創立当時から常任理事に選ばれ、特に西部地区における総務担当者として花展の開催、研修会、懇話会などの企画運営に今日まで十数年間活躍されている。現在東西合わせて二千五百名の大世帯となっている。



日本いけばな芸術協会発足の翌年昭和42年春、高松宮邸にて理事、評議員の全国大会が催され、総裁高松宮妃殿下と役員が同ご殿お庭において東西常任理事の記念撮影。

(前列右から) 小原豊雲、麻生和子、勅使河原蒼風、会長細川護貞、名譽総裁高松宮妃殿下、石坂泰三、山本忠男、池坊専永、石川数雄、(後列右から) 西村雲華、河村万葉庵、早川尚洞、宇田土風、池田理英、吉村華泉、金子霞璋、桑原專慶。



日本いけばな芸術展は、四国を皮切りに九州、中部地区と各地方で大花展を開催、そのたび毎に総裁、高松宮妃殿下をお迎えして植樹など意義ある行事を行った。これは岡山高島屋で開催した時の実行委員。

(前列右から) 金丸秀華、桑原專慶、肥原康甫、中野蒼松、早川尚洞、小原豊雲、名譽総裁高松宮妃殿下、会長細川護貞、池坊専永、西村雲華、大津隆月、宇田土風、手嶋千俊。

天皇、皇后両陛下をお迎えして



家元西村雲華師の「新緑の摩耶」作品をご熱心にご覧になる天皇、皇后両陛下。（東京高島屋）

同上の作品製作中の思い出の写真。



昭和42年5月9日から、財団法人、日本いけばな芸術協会発会記念の大花展が東京高島屋において開催された。その初日には天皇、皇后両陛下の行幸を迎ぎ史上初の光榮に浴した。陛下は植物学者だけに、特にご熱心にご覧になり、いろいろと学問的にもご下問になるなど、伝統あるいけばなに深きご关心をいただいたことは発会記念行事に最も意義深いものがあった。

この日は総裁高松宮妃殿下がご案内役ながら、秋父宮妃、常陸宮妃、三笠宮妃など各宮家おそろいでおなりになった。

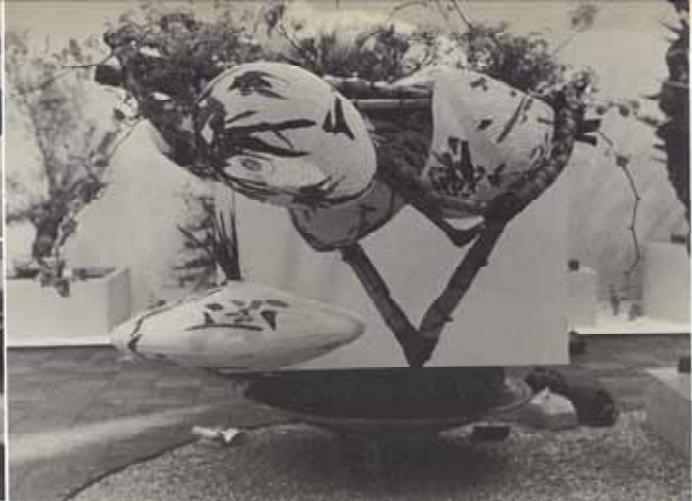
西部花展にお迎えする総裁の宮様と共に

第二回日本いけばな芸術展が大阪高島屋で開催、家元の大作を興味深にご覧になる秩父宮妃殿下と高松宮妃殿下。（昭和四十四年五月）



日本いけばな芸術展、大阪高島屋
(昭和45年5月)

日本いけばな芸術展、大阪高島屋
(昭和47年5月)



世界いけばな大会出瓶の家元雲華氏作、岐阜提灯、亀甲竹などで組み合わせた吊花。

皇太子ご夫妻をお迎えして

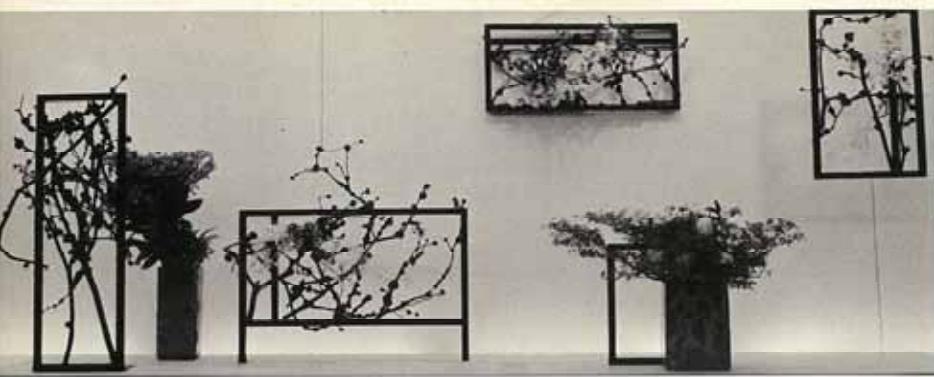
昭和41年5月東京高島屋において世界いけばな大会が開催され、皇太子ご夫妻はじめ各宮家おそろいでおなり遊ばされた。

ご熱心にご覧になる皇太子ご夫妻（上）と家元作ご覧の宮様方（下）



世界いけばな展会場で制作する先生方、この頃の制作意欲は實に純真そのもの、創造的意欲もともなって、楽しみながら作品ができたもの、自信過剰になると、人間は何をやってもつまらないものになってしまう。





後期展出瓶 5 人連作。

第6回日本いけばな芸術展 大阪高島屋 昭和47年5月



西村 謙

日本いけばな芸術協会の芸術展は、隔年毎に行なわれているが、この花展においては、縦裁高松宮妃殿下のおゆるしを得て、出瓶者一人ひとりと作品の前で記念写真を撮ることになったことは、洵に光栄この上ないこと、生涯の思い出となるでしょう。



瀬良 弘風



小西 杏花



高井 翠花



加藤 昭華



前期展出瓶 新潮格花を紋入花器にいける。

何分にも、750坪の大フロワーに展開された日本最高の花展、出版者前後期を通じて960名という大変な数を紀殿下にはお疲れのご様子もなくお写しいただいたことは、ほんとうにもったいないことであった。

その御心に感謝しながら記念のため掲載させていただいた。



家元 西村 雲華



河合 三雲



池田 昭風



依藤 浩輔



荒田 圭芳

日本いけばな芸術 四国・九州・中国展

地方展として昭和46年に四国(高松市民会館、披雲閣)、昭和48年5月九州(福岡岩田屋)、昭和48年9月中国(岡山高島屋)で開催、何れも総裁高松宮妃殿下をお迎えして植樹その他意義ある行事を行ない多大の成果をおさめた。会場には何れも五万人を越す入場者で、作品をゆっくりと観賞することができず、人の頭だけ見て帰ったというオーバーな言葉とも一概に言えない盛況であった。



兵庫県小野市の特産ブドウの家元作を美味そうにご覧になっている妃殿下(四国披雲閣にて)



①前殿下
の宮家元作をご覧の高松宮妃殿下で
②と私の作品は足元が細くて
③若風先生面白くて
④勅使河原蒼風先生面白く
⑤ながくながく丁度
⑥河原蒼風師のユーモアな説明を聞かれる高松
⑦蒼風先生のようだ!!(家元作品)

なごやかな名古屋展 日本いけばな芸術 中 部 展

昭和49年9月地方展としては最終の地、名古屋名鉄百貨店で中部展が開かれた。名古屋を中心福井、岐阜、三重の地区から賛助会員を含め422名の出瓶による大花展であった。

前期展には高松宮妃殿下、後期展には両殿下をお迎えしてのとてもなごやかな雰囲気の花展で、入場者も6万5千人という記録的なもの、連日超満員で立錐の余地もないほどの盛況。四国、九州、中国、中部と一緒に有終の美を飾る花展に相応しい成果をおさめ得ることができた。



九州展で家元作品の前でごあいさつ。(岩田屋)



河合三雲師作コロンケット(観賞用瓜)を珍らしくご覧になる妃殿下。(四国高松市民会館)

馬籠、妻籠附近で採集された花材で
いた家元作をご覧になる高松宮殿下。



九州展池田昭風師作



九州展家元作





名譽総裁高松宮妃殿下は協会運営にはとてもご熱心にご指導いただき、協会の実情など具きにお聞きになることしばしばである。大阪ロイヤルホテルにて役員と懇話の一とき。(昭和49年5月)

全国的視野に立って 十年間の勤めを今後に

私の最も活躍すべきときは、日本いけばな芸術協会の仕事のために、自流のことができなかつことは残念である、しかし、より以上に尊い体験をし、立派な方々の厚いご指導をいただき非常にむづかしい華道界の全国的な仕事の一端を、大過なく勤め得たことを顧みるとき、背筋から冷汗が出る思いがすると同時に、先輩の先生方の華道を通じての人間性に、心から尊敬の念をいただくものである。そうした尊い体験を今後にも生かして、華道を通じて明るい社会づくりに、又協会の発展のために微力を挿げたいと思っている。(雲)



西部地区会員を代表して名譽総裁高松宮妃殿下から認証状
を授受される家元(昭和44年5月)



高松宮妃殿下から贈られたお歌
ものいはぬ 花のえにしに
結はれし
我らゆかなむ 心ひとつに

昭和49年度 全国総会

東京椿山荘における東西合同全国総会において、総務報告
される家元(上と左)とハイティイ会場で池田昭風、荒田圭芳先生
(下)昭和四十九年七月



エリザベス女王来日 迎賓館和風別館にお花

昭和50年5月8日、エリザベス女王ご来日に際し、外務省儀典課の依頼で、東京赤坂の迎賓館和風別館に日本の伝統芸術いけばなをご覧いただくことになり、日本いけばな芸術協会役員14名が之を担当することになった。これには、総裁高松宮妃殿下や、英國皇室と共に親しいご関係のある秋父宮妃殿下、顧問の麻生和子さんらが当日のご先導ご説明役としてこれにあたられることにより、ご関心の深い女王陛下に楽しく日本のいけばな全貌をご観賞いただくことができた。私は玄関の間の飾り床に、桐の花、小松、乙女百合の取り合わせで、勅使河原蒼風師秘藏の須恵器に小品ながら日本調に風雅な姿態にいけた。ご覧の女王陛下は特に乙女百合の可憐な花に見入りご関心深くお尋ねになっていた。(雲)

迎賓館和風別館の玄関床にいけられた家元作『桐・松・乙女百合』



日本のいけばなをはじめてご覧になる
エリザベス女王・エディンバラ公をご案内の高松宮妃殿下、
迎賓館にお花をいけ、当日お出迎いをした役員と宮様方。
(前列右から)池坊・小原・麻生・高松宮妃殿下・秋父宮妃殿下・細川・勅使河原
(二列右から)石川・早川・池田・勅使河原蒼・手嶋・西村
(後列右から)金子・吉村・下田・金丸・大津・宇田・





第9回日本いけばな芸術展、家元作をご覧の高松宮妃殿下。
大阪高島屋（昭和49年5月）



創立十周年記念日本いけばな芸術展は高島屋7階750坪を会場に延千名の出品で、4月15日前期展、18日後期展共に総裁高松宮妃殿下をお迎えしてのティーパックで華ばなし開催された、ストのため後期展は一日短縮されたが、入場者6万人を数える盛況であった。尚セレモニーはロイヤルホテルで総裁のご臨席を得て開催、大阪府、大阪市の施設に寄付するなど意義ある行事を行なった。



日本いけばな芸術協会創立十周年記念祝賀記念パーティーで高松宮妃殿下からねぎらいの言葉を賜わる家元西村雲華師。

第九回展の副家元作御覧、創立十周年記念展の前後期展ご覧の高松宮妃殿下。

財団法人
日本いけばな芸術協会

創立十周年記念行事

（昭和五一年四月十五日）

日本いけばな芸術協会と私

—日本いけばな芸術協会と私—

昭和41年12月5日、財団法人日本いけばな芸術協会が誕生いたしました。全日本の諸流華道家の大同団結がなしとげられました。その協会の常任理事として選ばれ西部地区的総務を担当せよというようなことになってしまいました。今年で11年目を迎えるわけですが、その間、大阪高島屋におきます西部の本花展、四国、九州、中国、中部地区と、地方の花展開催の企画運営、東京高島屋における東部本花展の招待出展、その間に毎年講演会、研修会、事務局報の発行など、枚挙に暇かないほど忙しい毎日を過し、自流の仕事に手がつけられないほど過去10年間は協会の仕事に追われてきました。その間、実に尊い豊富な体験をさせていただき、華道界の全貌を知ることができました。又高松宮妃殿下を名誉総裁としていただいておりますので、事ある毎に、お言葉をいただき、光栄に過ること頗々、この道に生る幸わせを今更のように痛感している次第です。

華道生活の中で、この日本いけばな芸術協会がいろんな意味で、最も大きな力となって、私をはげまし、意義ある華道生活を送ることのできた10年間であったと一面幸わせに思っています。



創立10周年記念花展前期展をご覧いただく皇后陛下と
宮様方（東京高島屋 昭和51年4月21日）
後期展には皇太子ご夫妻・宮様各家のご巡賀をいただき、家元はその後期展に出展されていました。



新理事、評議員の認証式が高松宮邸で行なわれ、同お庭で円遊パーティーに高松宮妃殿下と共に、謙副家元他西部メンバー
(昭和51年4月23日)



